

かわむらこどもクリニックNEWS

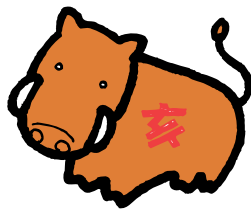
Volume 15 No 1

162号

平成19年 1月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

あけまして
おめでとうございます



今年もよろしくお祈りします

院長・スタッフ一同

新しい年に向けて-2007-

院長

毎年恒例ですが、新しい年に向けてと題して昨年を振り返ってみます。

毎年のように悲惨な事件や事故に遭遇しますが、昨年の子どもたちの大きな問題はいじめです。いじめを苦にして自殺した子どもたちが続いたことは皆さん御承知のことと思います。このいじめ問題に関しては、12月号をご覧ください。学校や教育委員会の対応には、本当にあきれてしまいました。もうひとつ、子殺し、親殺しが絶えません。本来子どもを守る立場の親が子どもを殺し、子どもが敬うべき立場の親を殺す、なんと悲惨な出来事なのでしょう。特に幼い子供が犠牲になるような事件が続きました。満足に食事も与えられず、親にせっかんを受けながら弱っていく子どもの思いを考えると、本当に悲しくなってしまう。子どもが巻き添えになる飲酒運転も大きな社会問題になりました。福岡市で8月に起きた橋からの転落事故、これも忘れられない事故のひとつです。救助された母親が幼い3人の子どもたちを助けるために、4回も海に潜った母親の姿、これが本当の親の姿ということを見せつけられました。その状況での親御さんの気持ちを考えると、本当に助かって欲しいことでした。

新年早々悪い話ばかりで申し訳ありません。もちろん、明るいニュースもありました。トリノオリンピックで奮わない日本勢の中、宮城県出身の荒川静香選手が金メダルを取り、「イナバウアー」が流行語大賞にもなりました。41年ぶりの男子である悠仁親王誕生が、9月にお生まれになられたことは皇室にとっても国民にとっても明るいニュースのひとつです。続いて、当院での話題に少し目を向けてみましょう。2月に雑誌「ホスピタウン」で、実績を誇る医師たち「こどもの病気・50人の名医」に選ばれ掲載されました。当院の様々な活動が評価された結果です。3月には医療雑誌の「HINT」で、「患者・国民が期待する情報」として、「新

聞、e-mail、子育てサークル...。あらゆる方法で情報を提供し母親の不安・心配の解消を目指す」と、フルカラーで4ページにわたり当院の活動が紹介されました。その他、当院の活動は河北ウイークリー、リビング新聞でも紹介されました。

院長がインターネットで医療相談を受けていることは、御存知と思います。インターネットの医療相談を受けた、ラースさんのブログ「えりりんのハワイ生活(<http://rararaeririn.at.webry.info/>)」に、“母親失格”のテーマで医療相談の経緯が書かれています。医療相談はマグネットダーツを飲み込んでしまったが、どうしても不安が拭えないというものです。親御さんの気持ちや小生への感謝の気持ちが述べられています。医療相談も大変で、時にはやめようと思ったりしますが、このような感謝の言葉によって続けるモチベーションが生まれてきます。院長が仕事以外にどんなことをしているのか、是非ご覧ください。

お陰様で、1998年5月から始まった「お母さんクラブ」が、8年目で延べ参加人数が1000人を超えました。参加者が少なく、時には中止しようという思いに駆られたこともありましたが、多くの会員に支えられてここまで続けることが出来ました。昨年最後のクリスマス会では、会員の方々がクリニックのために作ったクリスマスツリーを頂きました。院長やスタッフの写真がオーナメントとして飾られ、突然の贈り物で本当に感激しました。今年もまた多くの方々に支えられていることを、改めて感じる事が出来ました。本当にありがとうございます。

いつの間にか、当院も2月20日で14年になります。毎年“漫然と同じことの繰り返しでは、進歩がありません。”と書いています。これから、また何か新しいことが出来るか、性懲りもなく考えているところです。お母さんたちも子どもたちのため、何か一つ新しいことに挑戦してみましよう。新しいことが出来なくても、一つ一つの小さな積み重ねの大切さも大事にしたいことです。子どもたちを取り巻く環境は必ずしも良好ではありません。今年皆さんにとっても自分にとっても、ますますよい年になることを願っています。

年賀状 ありがとうございます

今年もたくさんの年賀状を頂き、ありがとうございます。本来は御返事を差し上げるのですが、この場を借りてお礼を申し上げます。

院長・スタッフ一同



あけまして おめでとう ございます

今年は今までやってみたいと思いつつ足を踏み出せなかった事がいくつかあるので全部チャレンジしてみたいです。 事務 福地 あさか

今年1つ夢を見つけて過ごしたいと思っています。そして、楽しく学びながら仕事を頑張っていきたいです。 事務 道端 ちひろ

今年猪年!!猪突猛進とありますが、一つの事だけでなく、目の前が広く見えるようにしたいと思います。今年も元気・笑顔を大事にしていきたいです。 婦長 中米 由美子

今年も「急ぐとも、心静かに深呼吸」で、慌てずにいろいろなところに気配りできるようにしていきたいです。それからもう一つ、結婚当時の体重に戻すことです! 看護師 佐藤 陽子

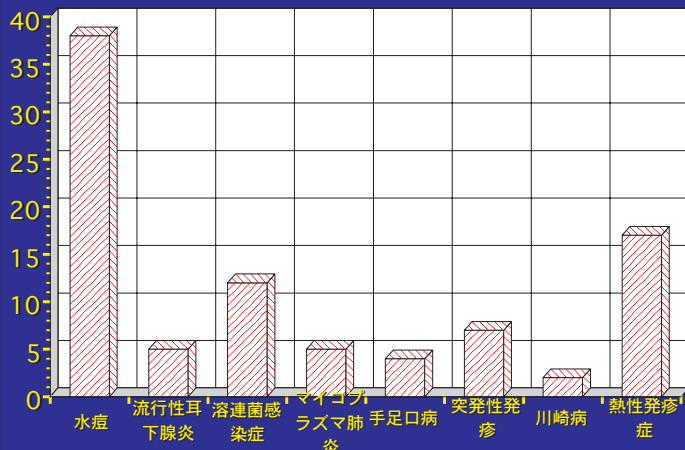
今年、何事にも一期一会の精神で頑張りたいと思います。 看護師 北澤 宏枝

読者の広場

先月は22通のメールを頂きましたが、季節柄医療相談が目立ちました。今回頂いた中から、「お母さんクラブ」のクリスマス会とイルミネーションについての感想を紹介します。まずは泉区の寺島さんからです。「いつもお世話になってます。寺島 マナ&カナの母です。今年もクリスマス会、お疲れ様でした。年を重ねる毎に、参加人数や内容も濃くなり、本当に楽しかったです。今回、日頃の感謝の気持ちを込めてのプレゼントを渡ささせていただきました。実は、去年のクリスマス会終了から、三宅さんとお話しをして、今回に至りました。といっても、話し合いは11月くらいからで、しかも私は悪阻の真っ最中ということで、企画を丸投げしてほとんど任せっきりだったのですが、お星様をつけてもらうとき、僭越ながら私がお挨拶させてもらいましたが、舞い上がってしまいうまくお話しできたかどうか。今回のツリーの土台を作成してくれたのは、三宅さんです。オーナメントは、あやのちゃんママと、まおちゃんママと私。そして、会場に見えてた皆さんにはオーナメントを飾って頂いたのはもちろんですが、材料費の方も頭割して、皆さんから徴収(大げさ??)させてもらってます。私たちが勝手に作って、お金までとってしまったのですが、皆さん本当に心良く賛同してくださいました。かわむらこどもクリニックに対する感謝の気持ちを、集まった皆さんが心から持っている何よりの証拠だと感じましたよ。毎回ビックリするくらいのプレゼントの山、その中には、忙しい台間に作って下さる手作りの心のこもったプレゼント。子供たちも大喜びではしゃぎまわります。はしゃぎすぎて、近いうちにお世話になりそうな勢いです。まだまだ忙しい期間が続くと思います。皆さんお身体にはくれぐれもお気をつけて、年末年始を過ごして下さいね。」。ツリーの贈呈式は、壇上でツリーの上に院長が星をつけて完成させるというものでした。星を付けたとたん皆さんの拍手を頂き、本当に感激しました。一人一人のオーナメントまで作ってもらって、スタッフ一同喜んでます。是非来年の日本外来小児科学会で展示しようと、密かに(もう密かでは無くなりましたが)決めています。もう一通は宮城野区の板橋さんからです。「クリスマス会ご苦労様でした!。親子ともに楽しかったです(^0^)。中米さんの話しのとおり今夜イルミネーション家族で見に行ってきたよ。すごく綺麗で二人は大喜びでしばらく見てきました。写真もとってきましたよo(^-^)o。かわむら先生いるかな〜と病院の中をりくは覗いていました。明日も行くって張り切っていました☆ずっと続けて下さいね。」。先月号でも紹介しましたが、今シーズンからクリニックのクリスマスイルミネーションをはじめました。もちろん来年も続ける予定です。少しずつ、増やしていきたいと思っています。ずっと先ですが、今年のクリスマスに御期待ください。「お母さんクラブ」の取材でインフルエンザの記事を掲載した「はっぴーママ」発売中です。是非本屋さんでご覧になって下さい。



12月の感染症の集計



グラフには示していませんが、ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎はかなり多くみられましたが、下旬から減少傾向です。水痘はかなり増加しています。流行性耳下腺炎、溶連菌感染症は横ばいです。熱と咳がひどい例にマイコプラズマ肺炎が混じっています。インフルエンザを心配する人がいますが、今のところ仙台では出ていません。

編集後記

年のはじめです。気持ちを新たに良い医療を目指して、スタッフ一同努力していきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願致します。今年一年、皆さんにとってもクリニックにとっても良い年になるように願っています。



院長著書「小児科医がやさしく教える 赤ちゃん子どもの病気」の再版にご協力を。お陰様で再版の方向に! 詳しくは かわむらこどもクリニックHP(<http://www.kodomo-clinic.or.jp>)を